

## 令和元年度 第1回 東京都教員育成協議会 会議要旨

- 1 日 時 令和元年6月24日(木)午後3時から午後5時まで
- 2 会 場 第二本庁舎31階 特別会議室23
- 3 出席者 宇田委員(会長)、増田委員(副会長)、國分理事・副学長(佐々木委員代理)、森山委員、卜部委員、吉川委員、後藤委員、安間委員、若菜委員、小池校長(野村委員代理)、茅原委員、金澤校長(杉本委員代理)、堀内委員、安部委員、石田委員

### 4 議事内容

(1)「東京都公立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」(以下、「指標」と表記。)、**「学び続けよう、次代を担う子供のために—平成31(2019)年度東京都教員研修計画—」等の活用について**

- ・ 大学では、研修会において全教員に配付して周知徹底するとともに、FD(Faculty Development ファカルティ・ディベロップメント)の中で取り扱うように示した。また、授業や教職課程の説明会等でも活用している。
- ・ 指標を参考に、教員養成指標を作成し、本学における「養成すべき4つの力」として示し、活用していくよう、大学教員に周知を行っている。
- ・ 学生にとって、指標には東京都が求める教師像が示されているものだと認識はできるものの、そのキャリアステージや相関については分かりづらいようだ。そのため、授業においては学生の理解が進むように、指標に示された内容だけでなく教員形成期の前段階についても説明するなど工夫している。
- ・ 教育委員会では、教員研修(年次研修、職層研修等)の運営及び実施や学校訪問等において、指標を「指針」として活用している。バランスの良い資質・能力を育成することが目的である。
- ・ 学校では、教員が自己申告書を記入したり、学校におけるOJTやOff-JTを行ったりする際の指針として活用させている。また、校長が個々の教員とキャリア形成に係る面接を行う際において活用することで、必要な資質・能力をいかに伸ばしていくかについて具体的に示すことができる。
- ・ 校長会が主催する教員の人材育成講習会において活用している。

(2) **若手教員の現状と課題について**

- ・ 「若手教員」を5年目までの教員とすると、その年齢層や仕事に対する意識、キャリア形成の方向性は様々である。育成においては、個々の教員の現状に合った工夫をしていく必要がある。
- ・ 教員は、子供たちや保護者、地域からも信頼を得られる人間、一社会人であることが必要だ。若手教員や教員志望者の育成に当たる大学や教育委員会、学校においては、社会人としての常識やコミュニケーション能力等、人間としての基礎的な部分も含めた人材育成の工夫が必要である。
- ・ 教員志望の高校生や、教員候補者が減少している現状がある。大学では、いかに教職の魅力を伝えるかという視点を持ち入試改革を進めている。また、教育庁人事部では、教員志望者の倍率の回復に努めるべく、大学等における説明会を積極的に実施している。
- ・ 教職大学院では、フォローアップ研修を行っていることから、学部においても、大学卒業後の初任者に対して支援することができないかという動きがある。そのためには、大学教員が学校について真に知ることが不可欠であり、FD等においてその理解を深めていくことが大切だと考える。また、多様な教育課題に対応できる資質・能力をもつ教員の育成に向け、教職課程の方向性についても検討している。